

つた、人權蹂躪されたのは吾々無産階級者でなかつたらうか次に脚田内閣は如何、この構成要索は草部、長老、合法政黨輪回派、新官僚派、貴族院の五つからなる、何故此の内閣に後藤内相、吉田官長が入り政府の中心となつたがそれは各省の右半周藤長等の昭和時代層人第三期人が新らしい勢力を盛上て來たからだ次の内閣中心勢力は高橋敬相を中心とした軍部合法派、貴族院である宇垣、平沼を擔ぐ連中もあるが見込なし。次に陸海軍軍人、資本主義改造派の勢力であるが此の起りは荒木陸相當時の第一期の三月事件及び滿洲事變、五一事件等が陸續として問題が勃發した為陸相は之を精神主義で締めたが、次の林陸相の時代になり軍の使命は政治問題を考へて行かねばならぬと言ふことになつて來て合法派、即戰派（一五、一五事件の殘黨）國粹主義派の三つの流れがあるこ

もので株主が幾萬株を持つて居ても技術と機工が良いものを造らねば駄目だ、技術家、労働者中心の組織が出来なければならぬ、資本主義の敗類である。

門の考収方學問とは十八、九世紀の學問は理屈が先であつた眞の學問は人間の經驗を基礎としなければならぬ。世界の文化を日本特有のものに造り上げた日本精神の過程は吸收時代反動時代、獨創時代に分けられる反動時代に當りて獨創的無產運動をなすの覺悟と決意を持たねばならぬ、日本の社會は無產階級と資本家との對立よりなつて居るが無產黨が新興勢力の中心となる文化を建設する時代層人とならねばならぬ。現状維持の意味に於て組織せられた齋藤内閣は帝人事件の發生で維持が出来なくなり新しき中堅勢力が起ち上つた司法省は取然と之の糾明に當り、政友會からの人權蹂躪か問題とな